

令和4～6年度 白河市立関辺小学校 学校課題研究

【研究テーマ】

学び合い、高め合う授業の追究

～よりよい学級づくりを基盤として～

発表の内容

- はじめに
 - 1 本校の研究主題について
 - 2 Q-Uテストの分析と学級集団づくり
 - 3 授業におけるQ-Uテストの活用
 - 4 「分かる・できる・やりたい」のある授業づくり
 - 5 授業の実際
 - 6 SGEについて
 - 7 授業を支える「目標をもってチャレンジできる場の設定」
- 終わりに



○ はじめに

【関辺小学校の概要】

- 白河市の南側に位置している
- 学区内に関山、白河の関などの景勝地がある
- 令和6年度の児童数101名
- 普通学級 6学級
特別支援学級 1学級(知的)



1 本校の研究主題について

「学び合い、高め合う授業の追究」

～よりよい学級集団づくりを基盤として～

【研究の見通し】

Q-Uテストを活用した

親和的な学級集団づくりを基盤として、

「分かる・できる・やりたい」のある授業づくり

を実践していけば、児童間の相互作用により

学習意欲が高まり、学び合い、高め合う

授業の展開が実現されるであろう。



(1) 令和元～3年度までの取り組み

なぜ、

よりよい学級集団づくりなのか

「学び合い、高め合う授業の創造」～読む力を高めることを通して～

研究教科：国語

① 令和元～2年度の実践

- 読み取る力を高めるために、説明文における学習方法の習得
- 考えを交流する場の工夫や交流に仕方

② 成果と課題

- 成果：読み取る力が高まった
- 課題：自分の考えがもてない児童がみられ、学び合いが深まらない

③ 令和3年度の取組

一人一人が自分の考えを持ち、聴き合い、

支え合う「協働的な学び」の追究

- 基盤となる学級集団づくり
- 授業の質的改善
- 授業周辺部の工夫

④ 令和3年度の成果と課題

- 年2回のQ-Uテストの学級満足群の向上
- 学校評価アンケートの向上

学校が楽しい A・B評価95%



(2) 令和4～6年度の研究主題

「学び合い、高め合う授業の追究」

～よりよい学級集団づくりを基盤として～

【研究の見通し】

Q-Uテストを活用した

親和的な学級集団づくりを基盤として、

「分かる・できる・やりたい」のある授業づくり

を実践していけば、児童間の相互作用により

学習意欲が高まり、学び合い、高め合う

授業の展開が実現されるであろう。



現在の研究主題

「学び合い、高め合う授業の追究」
～よりよい学級集団づくりを基盤として～

1年次(R4)	2年次(R5)	3年次(R6)
<p>Q-Uテストの理解と実態把握、</p> <p>分析力の向上(教師)、</p> <p>それを生かした授業づくりを中心に</p> <p>(研究教科:自由)</p>	<p>Q-Uテストをもとにした</p> <p>学級づくりの上に、</p> <p>その視点を生かした授業づくりをする！</p> <p>学び合い、高め合う授業の土壌をつくる！</p> <p>(研究教科:算数)</p>	<p>2年次までの実践をもとに</p> <p>どのように「学び合い、</p> <p>高め合う」授業をつくり上げていくか</p> <p>(主体的・対話的で深い学びをめざして)</p> <p>(研究教科:算数)</p>

(3) 学校課題研究の概要

学び合い、高め合う授業の追究

～よりよい学級集団づくりを基盤として～

めざす子どもの姿

- 自ら進んで学習に取り組もうとする主体的な姿
- 友達の考えを共感的に聴き、受け止める姿
- 自分の考えを伝え合い、学びを深める姿
- 互いの良さを認め、協働し、切磋琢磨して高め合う姿

研究の見通し

Q-Uテストを活用した親和的な学級集団づくりを基盤として、「分かる・できる・やりたい」のある授業づくりを実践していけば、児童間の相互作用により学習意欲が高まり、学び合い、高め合う授業の展開が実現されるであろう。

1 年次 Q-Uテストの理解、実態把握、分析力の向上（教師、それを生かした学級づくりを中心に）

2 年次 Q-Uをもとにした学級づくりの上に、その視点を生かした授業づくりを中心に

3 年次 2年次までの実践をもとに、どのように「学び合い、高め合う授業」を作り上げていくか（主体的対話的で深い学びをめざして）

学習意欲の高まり
学び合い、高め合う児童の姿

研究の方法

《研究の方針》

- 無理なく、ためになる研修
- 児童をいかによりよく育てるだけでなく、教師自身の自信につながる研修とすること。

《研究の方法》

- 授業実践（1人1授業）を中心とする。
 - ・ 研究教科は算数科とする。
 - ・ 基本的に指導案検討は部会、事後研究は全体で行う。Q-U分析、対応策検討も部会で行う。
 - ・ Q-U研究も同時進行で行い、方法論の理解も深められるようにする。



研究の進め方

- 4・5月 研究の方針決定
- 6月 第1回Q-Uテスト実施
- 第1・2回授業（昨年度データをもとに）
- 7月 調査結果の分析・検討
- 8月 Q-U学習会
- 9月 調査結果に基づく授業実践（第3～6回）
- 11月 第2回Q-Uテスト実施
- 12月 調査結果の分析・検証
- 1月 実践のまとめと反省
- 3月 次年度の計画

「分かる・できる・やりたい」のある授業づくり

目標を持ってチャレンジできる場の設定

基盤となる学級づくり

【親和的でやる気に満ちた、居心地の良い学級集団】

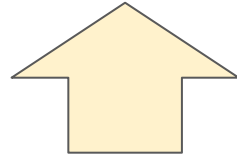
- Q-Uによる実態把握と分析・活用
- 互いの良さを認め、自己有用感を育む望ましい人間関係作り
- SGEの継続的实施



「分かる・できる・やりたい」のある授業づくり



目標を持って
チャレンジできる場の設定



基盤となる学級づくり

【親和的でやる気に満ちた、居心地の良い学級集団】

- ◎ **Q-Uテスト**による実態把握と分析・活用
- ◎ 互いの良さを認め、自己有用感を育む望ましい人間関係づくり
- ◎ **SGE**の継続的实施

2 Q-Uテストの分析と学級集団づくり

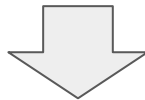
(1) 学級集団の状態の捉え方

教育環境の良好な学級集団には、二つの要素が確立されている。

① 集団内の規律、共有された行動様式 **(ルール)**

② 集団内の児童生徒どうしの良好な人間関係、役割交流だけではなく感情交流も含まれた内面的なかかわりを含む親和的な人間関係 **(リレーション)**

学級集団の状態を「ルール」と「リレーション」の2軸で把握する



Q-Uテスト

(2) Q-Uテストによる学級集団の状況把握

親和的なまとまりのある集団

(満足型学級)

ルールとリレーションが同時に確立している状態

侵害行為 認知群	学級生活 満足群
学級生活 不満足群	非承認群

かたさのみられる集団

(管理型学級)

ルールとリレーションの確率がやや低い状態

侵害行為 認知群	学級生活 満足群
学級生活 不満足群	非承認群

ゆるみのみられる集団
(なれあい型学級)

ルールの確立がやや低い状態

侵害行為 認知群	学級生活 満足群
学級生活 不満足群	非承認群

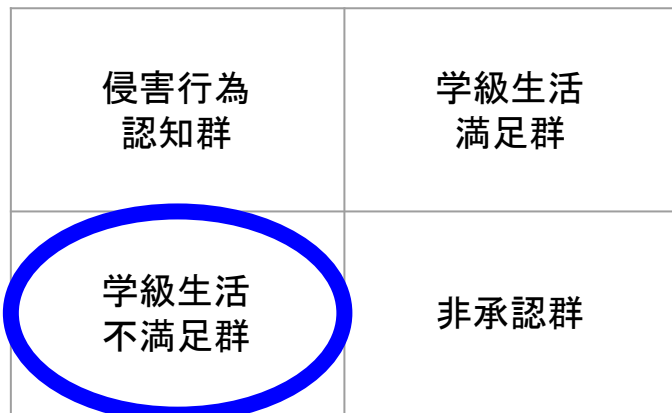
荒れ始めの集団
(荒れ始め型学級)

ルールとリレーションの確立がやや低い状態

侵害行為 認知群	学級生活 満足群
学級生活 不満足群	非承認群

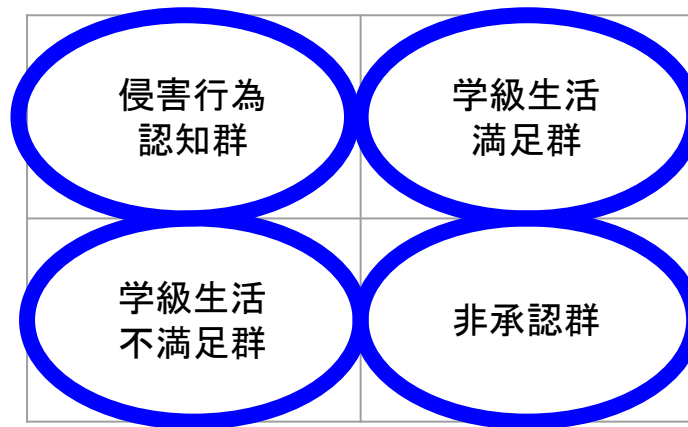
崩壊した集団 (崩壊型学級)

ルールとリレーションがともに喪失した状態



拡散した集団 (拡散型学級)

ルールとリレーションの共通感覚がない状態



(3) 学級集団の発達過程と指導



(4) 学級集団の各発達段階間の葛藤

【集団発達の葛藤の代表的パターン】

○ 小集団成立過程の葛藤(混沌・緊張期⇔小集団成立期)

- ① 「混沌・緊張期」から「小集団成立期」に進めない
- ② 「小集団成立期」から「混沌・緊張期」に退行していく

○ 中集団成立過程の葛藤(小集団成立期⇔中集団成立期)

- ① 「小集団成立期」から「中集団成立期」に進めない
- ② 「中集団成立期」から「小集団成立期」に退行していく

○ 自治的集団成立過程の葛藤

(中集団成立期⇔自治的集団成立期)

- ① 「中集団成立期」から「自治的集団成立期」に進めない
- ② 「自治的集団成立期」から「中集団成立期」に退行していく

混沌・緊張期

成熟

小集団成立期

成熟

中集団成立期

成熟

自治的集団
成立期

(5) 学級集団づくり(アセスメント・対応シートの活用)

プロット・担任報告から考えられる学級の状態・発達について

①「ルールの確立度」について

(内在化している) ↔ (教師が指示すれば行動する) ↔ (反発され教師の指示が通りにくい)

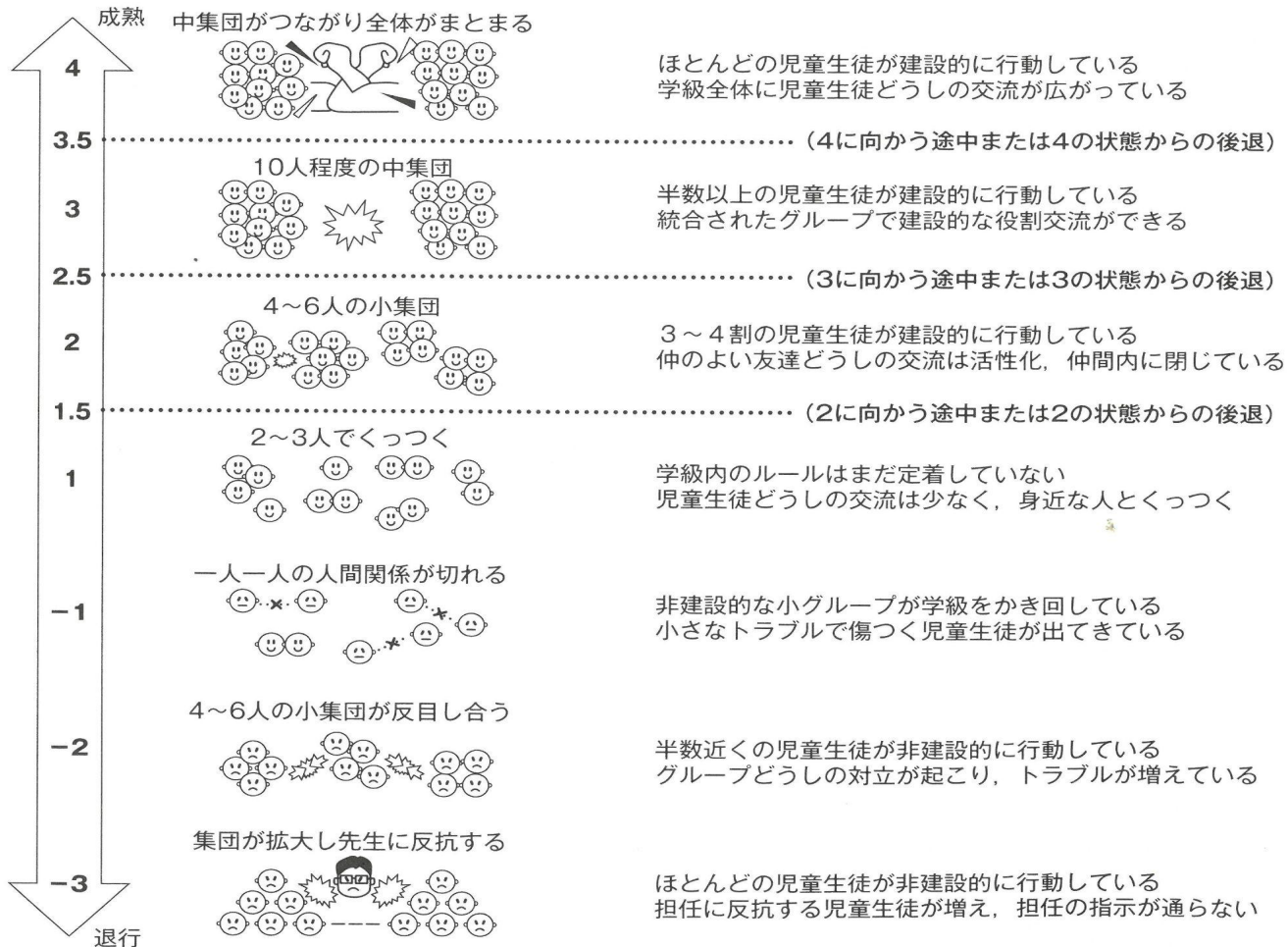
5 — 4 — 3 — 2 — 1

②「リレーションの確立度」について

(親和的に全体に広がっている) ↔ (小グループ内に閉じている) ↔ (グループ間対立・孤立・防衛的行動が顕著)

5 — 4 — 3 — 2 — 1

③ 学級集団の発達について



(6) 実際のQ-Uテストの分析(6年生)

R3

侵害行為認知群 1名 5% 全国17%	学級生活満足群 17名 82% 全国42%
学級生活不満足群 1名 5% 全国22%	非承認群 2名 10% 全国19%

R4

侵害行為認知群 0名 0% 全国17%	学級生活満足群 18名 86% 全国42%
学級生活不満足群 1名 要支援群1名 10% 全国22%	非承認群 1名 5% 全国19%

R5

侵害行為認知群 1名 5% 全国16%	学級生活満足群 19名 86% 全国43%
学級生活不満足群 1名 5% 全国23%	非承認群 1名 5% 全国18%

R6

侵害行為認知群 1名 5% 全国16%	学級生活満足群 16名 76% 全国43%
学級生活不満足群 2名 10% 全国23%	非承認群 2名 10% 全国18%

(6) 実際のQ-Uテストの分析(5年生)

R3

侵害行為認知群 3名 24%	学級生活満足群 8名 47%
全国17%	全国42%
学級生活不満足群 0名 0%	非承認群 5名 29%
全国22%	全国19%

R4

侵害行為認知群 0名 0%	学級生活満足群 16名 94%
全国17%	全国42%
学級生活不満足群 0名 0%	非承認群 1名 6%
全国22%	全国19%

R5

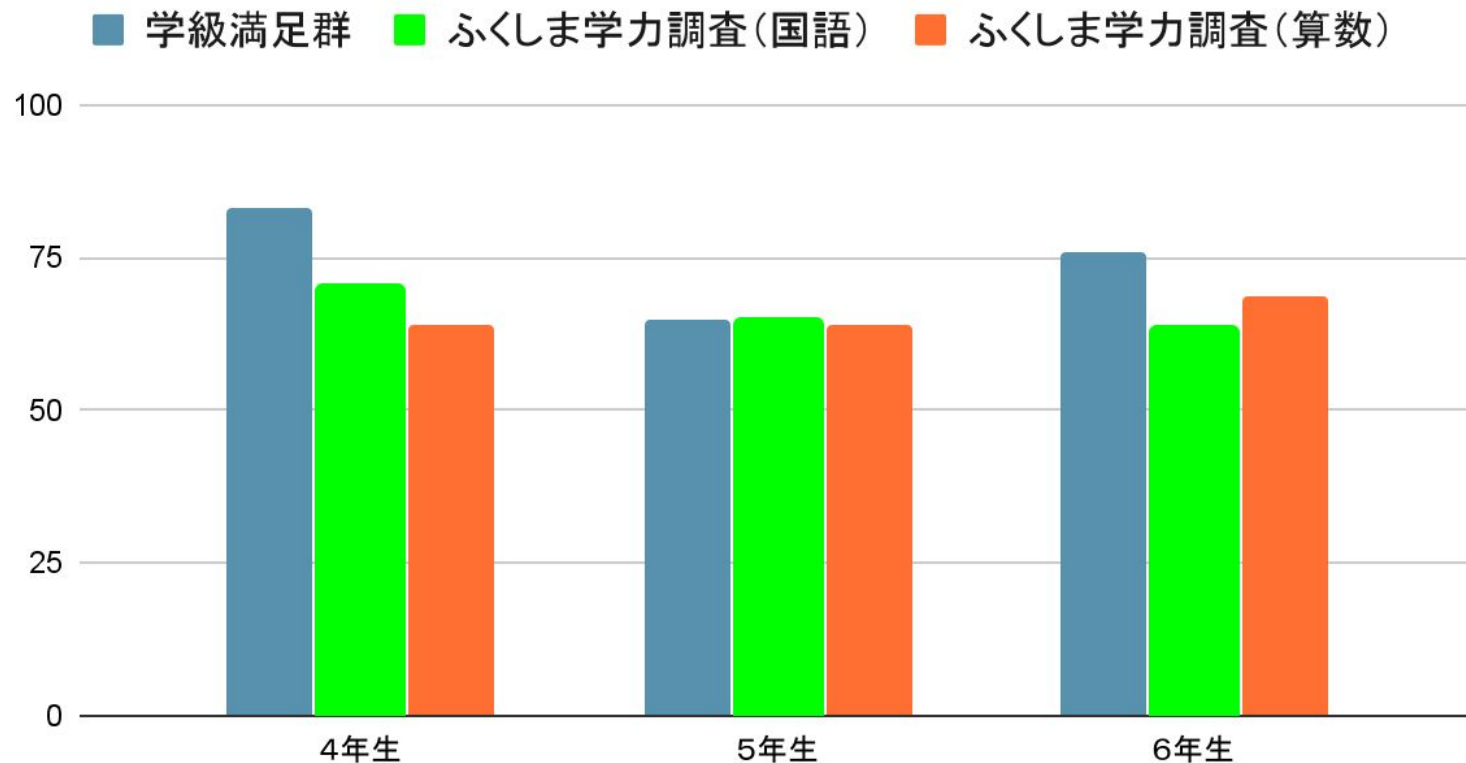
侵害行為認知群 3名 18%	学級生活満足群 13名 76%
全国16%	全国43%
学級生活不満足群 1名 6%	非承認群 0名 0%
全国23%	全国18%

R6

侵害行為認知群 2名 12%	学級生活満足群 11名 65%
全国16%	全国43%
学級生活不満足群 3名 18%	非承認群 1名 6%
全国23%	全国18%

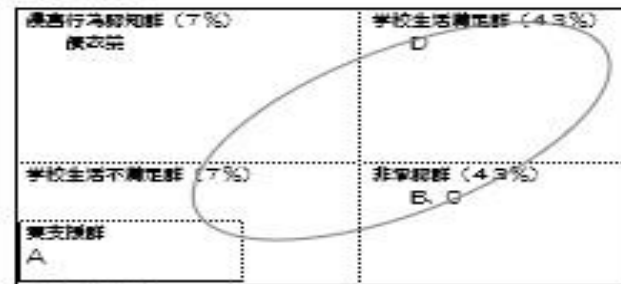
(7) 学級満足群とふくしま学力調査

学級満足群とふくしま学力調査(正答率)の結果



3 授業における Q-Uテストの活用

1 実態の把握



○ルールの確立度
5 ④ 3 2 1
得意 ← 得意群の割合

○リレーションの確立度
5 4 ③ 2 1
得意 ← 得意群の割合

○集団の状況

○満足型に近い傾向がある
- 多くのルールが確立され、多くの児童によって守られている状態になっている。しかし、本意に反している行動が散見され、「それは」「それはいい」と言い争いがあふれる。

2 結果の分析

問題と悩んでいること	ほとんどの児童が、友達と学校で過ごすことが楽しいと感じている。しかし、友達に迷惑がかかる行動をしていることに気付いておらず、周囲のこたえを承知し、自己中心的な行動をしている人が目立ってしまい、それに影響されてしまう人も少なからずいる。また、生き売られたことに苦しんで、トラブルになりがち。
態度や行動が気になる児童	A (他人の行動に口出しすることが多く、友達とトラブルになりやすい。その場合は話し合いを解決策を案じる。また、自分の思い通りにいかぬと、周囲に生き売られたりすると、興奮を起す。その場合は特に注意が必要。ルールが守れないまま様子を見る待機。) B (学習意欲が低い。ペア学習など、誰かと一緒にやるものを取り入れる。) C (空間スペースを占拠。周囲より行動が遅い。声かけが必要。) D (友達に迷惑をかけたことに対して、意欲で謝罪することで済ませる。悪い行動を繰り返しがち。サポート・クエストなど、話を聞くまで待たせたり様子を見る)
総合的なアセスメント (原因として考えられること)	学校生活にも慣れ、自分のことのみならず、周囲にも自覚することができるようになってきた。ルールに関する行動、大きな声や物言を立てることで迷惑をかけていることが一部に多い。そして、自分がされたら友達になるのにも関わらず、その迷惑行動を自分でもやっている。だからこそ、反応が強い。

3 対応策

これからの方針・目標 一人一人の反響して落ちついて過ごせる学級づくり	
場面	具体的な対応と留意点
授業中	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人が参加、活動できる環境を整える。 立ち歩く人などが周囲の歩行者を妨げるような行動を抑制する。 自分の考えの発表機会を多く取り出し、その機会を人前で発表できるようにする。 お互い助け合えることができるように、授業2人ずつのペアに調整する。
生活	<ul style="list-style-type: none"> 話をじっくり聞く。 頑強のや良いところを積極的に紹介したり称賛したりする。 問題点を伝えたり、良いところを見つけたり、ほめる。

4 分かる・できる・やりたいのある授業づくり

(1) Q-U分析を生かした授業づくり

- 学級タイプに合わせた授業の計画
- 不満足群、非承認群、侵害行為認知群の児童への具体的手立て

(2) 「分かる・できる」のある授業づくり

- 「授業スタンダード」を活用した授業計画とチェック
- 基礎的・基本的学習内容の把握と評価
- 想定されるつまずきへの具体的手立て
- 「40分+5分」で5問+ α の習熟の時間の確保
- 学力調査の分析を生かした授業計画

(3) 「やりたい」のある授業づくり

- 好奇心を持ち、学ぶ意欲が持続していく課題の設定
- 「分かる・できる」を増やし、自己の成長を感じられる活動の設定
- 事実在即した振り返りで新たな学びにつながるまとめと振り返りの工夫

(4) 学び合い、高め合う授業づくり

- 「聴く」「伝える」「応える」力を身につけさせる
- 子どもの考えをつなぎ、子どもたち自身で授業を進めているという満足感が得られる授業構成

授業スタンダードチェックシート（2学期）

白河市立関辺小学校

（4：よくできている 3：まあまあ 2：もう少し 1：改善の必要あり）

【授業充実のために】

No.	項目	チェック
1	単元（題材）の構想を明確にもっている。 <i>漢字学習の際、同音同義の漢字を扱っているが、本時の内容をよく理解しているかどうかを確認し、漢字もよくわかるように工夫している。</i>	④・3・2・1
2	本時のねらいを明確にもっている。 <i>漢字が、</i>	④・3・2・1
3	授業の約束事や学習に向かう心構えを指導している。 <i>漢字について</i>	④・3・2・1
4	子どもの「問い」や「思い・願い」を引き出し、学習課題を設定している。	4・③・2・1
5	子ども一人一人に追究・解決の計画や見通しを持たせている。	4・③・2・1
6	机間指導で子どもを見取り、適切に支援している。	④・3・2・1
7	ペア学習やグループ学習を取り入れる目的を明確にもっている。	④・3・2・1
8	本時のねらいに迫るように話し合いをコーディネートしている。	4・③・2・1
9	本時で学習したことを明確にし、振り返りを工夫している。	4・③・2・1
10	新たな学びに目を向けさせる終末になっている。 <i>おがの学習</i>	4・③・2・1
11	授業の流れが分かり、構造的な板書になっている。	4・③・2・1
12	吟味し、精選された発問をしている。	4・③・2・1
13	ノート指導を行っている。	4・③・2・1
14	5/7	4・3・②・1

【学級づくりのために】

方針・目標	内容	チェック
安心して自分の思いを表現し、違いも認め合える学級。目標に向かって力を合わせて頑張れる学級。	の反応(不安)	
授業で	友達の考えを自分の考えと比べながら聞き、必ず何から反応するように働きかける。意図を明確にしてペア学習やグループ学習を行う。	④・3・2・1
	適用問題に取り組む時間の確保。「できた」「わかった」と感じさせる。	4・③・2・1
	活用問題への取組を計画的に行う。	4・③・2・1
	…作業が遅れがち。個別の手立てをしていく。①の適速性を称賛する。	4・③・2・1
生活で	…目を合わせて話す。短く、多く声をかける。興味がないようにする。 …活躍の機会を多くする。意欲を称賛する。← 本時をやる	④・3・2・1
	学級目標や行事への取り組みについてみんなで決め、みんなで頑張ることを確認する。	④・3・2・1
	友達の頑張りがよいところを紹介したり称賛したりする活動を工夫する。一人一人が活躍できる場があるように配慮し、担任が率先して称賛する。	④・3・2・1

反省 中間面談とお話があったように、一部の児童の説明で終わらないよう、「全員へのための」「〇〇さんが言いたかったこと何かな」と漢字を思い出して同じ漢字を思い出させた。説明はわかるので、「こは」という時に「は科問」としたため、教材研究がやはり大切。

の文字の難さ、のミス（よく読み取れない）は、早く指導を続けている。新しい方を、ていねいさがいいという気持ちで習得している。

【学級づくりのために】

方針・目標 安心して自分の思いを表現し、違いも認め合える学級。目標に向かって力を合わせて頑張れる学級。		の反応(うそ)
授業で	友達の考えを自分の考えと比べながら聞き、必ず何かしら反応するように働きかける。意図を明確にしてペア学習やグループ学習を行う。	④・3・2・1
	適用問題に取り組む時間の確保。「できた」「わかった」と感じさせる。	4・③・2・1
	活用問題への取組を計画的に行う。	4・③・2・1
	…作業が遅れがち。個別の手立てをしていく。④ 少しの頑張りを称賛する。	4・③・2・1
	…目を合わせて話す。短く、多く声をかける。興味がそれないようにする。 …活躍の機会を多くする。意欲を称賛する。←忘れ物多い	④・3・2・1
生活で	学級目標や行事への取り組みについてみんなで決め、みんなで頑張ることを確認する。	④・3・2・1
	友達の頑張りやよいところを紹介したり称賛したりする活動を工夫する。一人一人が活躍できる場があるように配慮し、担任が率先して称賛する。	④・3・2・1

反省 中間面談でお話があったように、一部の児童の説明で終わらないよう、「全員が分かったのか」「〇〇くんが言いたかったことは何か」と発言を回したり質問を回したりを心がけた。時間はかかるので、「ここは」という時には時間とリタイア。教材研究がやはり大切。

の文字の雑さ、のミス(よく読み直さない)について指導している。
きれいな方、ていねいな方がいいという姿勢を育てたい。 →

「分かる・できる・やりたい」のある授業を 追究するために

① 課題の焦点化

- 本時に追究することがはっきりしている
- 「できそう！」「やってみたい！」

② まとめと振り返りの工夫

- 本時の学びを言語化
- 「わかった！」「なるほど！」

ふりかえりの視点
わ・が・こ・と

③ 適用問題の時間の確保

- 本時の学びを生かす場
- 「できた！」「もっとやりたい！」



関辺小 ふいかえいの仕方

わ わかったこと
わからなかったこと
わかりにくかったこと

わたしは、3けたの計算も、2けたの計算と同じように考えればよいことがわかりました。

が がんばったこと
次にごんばりたいこと

今日は、計算をまちがわないように、位をそろえて書くことをがんばりました。次ははやく計算できるようにごんばりたいです。

こ これまでの学習と比べて思ったこと
これまでの学習を生かしたこと

3けたの計算ができたので、4けたの計算も同じようにできるだろうと思いました。

と ともだちのこと

〇〇さんの説明が分かりやすかったです。おかげで、位をそろえなきゃいけない理由がわかりました。

「学び合い、高め合う授業」を目指して

① 「話し方・聴き方名人への道」の指導

→ 他教科でも、生活の中でも

② 「語り始めの言葉」の指導

→ 「例えば」「まず」「次に」「もし...だったら」など

→ 数学的な表現力をつける

③ 引き出したい考えや発言を具体化しておく

→ コーディネートをイメージするための柱

④ 課題に対する自分の考えをもたせ、表出させる

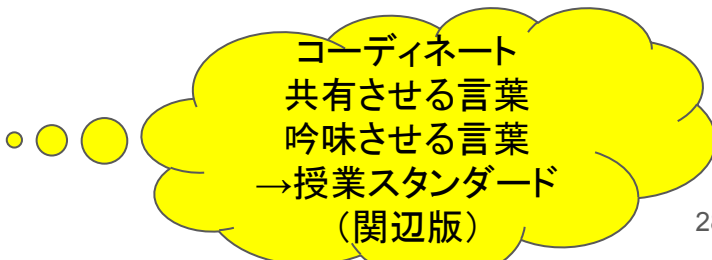
→ 「自分と同じかな、似てるかな、違うかな」と比べながら聴けるように

→ 考えを書く、○×で示す、挙手する、ネームプレートを貼るなど

⑤ 思考過程の共有、吟味

→ 「予想」「再生」「要約」などで共有

→ 思考を可視化、相違点・共通点を吟味



コーディネート
共有させる言葉
吟味させる言葉
→ 授業スタンダード
(関辺版)

聞き方 (聴き方) 名人への道

レベル1 おしきりしながら聴く

レベル2 話している人を見て聴く

レベル3 うなずきながら聴く
相づちも打ちながら聴く

レベル4 わからないことは
しつもんしながら聴く

レベル5 話している人の言いたい
ことがしっかりわかる

レベル6 自分の考えや
感想をいって聴く
・同じようにいって聴く
・うなずきながら聴く



自ら考え進んで行動する心豊かでたくましい子ども

本校の教育目標

すす かくしゅう こ
・進んで学習する子ども **知** ち

おもい やり ある 子ども **徳** とく

・しょうぶな子ども **体** たい

聞き方 (聴き方) 名人への道

レベル1 おしきりしながら聴く

レベル2 話している人を見て聴く

レベル3 うなずきながら聴く
相づちも打ちながら聴く

レベル4 わからないことは
しつもんしながら聴く

レベル5 話している人の言いたい
ことがしっかりわかる

レベル6 自分の考えや
感想をいって聴く
・同じようにいって聴く
・うなずきながら聴く

話し方 名人への道

レベル1 大きな声(みんなに聞こえる)で話す

レベル2 友達顔をみて話す

レベル3 友達に「伝えよう」といって
気持ちで話す

レベル4 短い文にへきいて話す

レベル5 最初に結論を話す
「わたしは〜だと思います。
理由は〜
つまり〜」

レベル6 みんなが分かっているかを
たしかめながら話す。
「○○ですか?」「
「?」で自分がまじったか?」

話し方 名人への道

レベル1 大きな声(みんなに聞こえる)で話す

レベル2 友達顔をみて話す

レベル3 友達に「伝えよう」といって
気持ちで話す

レベル4 短い文にへきいて話す

レベル5 最初に結論を話す
「わたしは〜だと思います。
理由は〜
つまり〜」



レベル6 みんなが分かっているかを
たしかめながら話す。
「○○ですか?」「
「?」で自分がまじったか?」

授業スタンダード（算数科）

関刃版

本時の目標

導入

問題提示

- ・分かっていることは？
- ・聞かれていることは？
- ・どんな式になりそう？
- ・今までと違うことは？



あれ？

教材との出合わせ方を工夫！

どうすれば？

子ども達自身が、何を考え、何ができるようになるのかを自覚！

考えよう！調べよう！等は行動目標



逆から考えて授業を組み立てることも！

学習課題

- ・何を学習するのか？
- ・何ができるようになればいいのか？

見通し

- ・方法の見通し（〇〇に似てる！図や数直線等を使えば！）
- ・答えの見通し（だいたいこれくらいになりそう！）

展開

自力解決

- ・見通しに沿って課題に取り組む。
- ※間違ってもいいからとにかくやってみる子どもへ！

学び合い

- ・ペアやグループ
- ・全体で！
- ・自分と比べながら聴く
- ※ICT活用

言葉をつなぐ



- ・続きが言える？（予想）
- ・もう一度言える？（再生）
- ・簡単に言う？（要約）
- ・別の言い方で言う？（換言）

共有

- ・それぞれのよいところは？（承認）
- ・どれが分かりやすい？（序列化）
- ・〇〇は違うの？（誤答）

吟味



まとめ

- ・何を学習したのか？
- ・どのように学習してきたのか？

分かったことは…

友達の考えから…

今日学んだことは…

めあての出だしの文と、黒板に書かれている大事なこと（色チョーク）をつなぐとまとめが書けるように！

確かめ5分

- ・適用問題を行い、学習の確かめを！
- ※場合によっては、まとめと確かめは逆の時も！

終末




5 授業の実際

4年生の授業

単元:角の大きさの表し方を調べよう

授業実施前の「研修だより」事前研で話題になったこと

※ 本時の学習過程 (研修会 時間 本時5/9時間)

学習活動・内容	時間 (※)	担当上の留意点 ■ 予立 □ 学級集用づくりに関する予立 ※ 評価
<p>1 本時の学習過程をつかむ。</p> <p>(1) ぐるぐるゲームをする。</p> <p>(2) 課題を設定する。</p>  <p>何度かな?</p> <p>180°より大きい角はどのように求めればよいのだろうか。</p> <p>(3) これまでの学習を基に、解決の道筋をもち、</p> <ul style="list-style-type: none"> 180°より大きい角度になる。 180°で線を引く。 360°から引けばいい。 	10分	<p>○ぐるぐるゲームで180°以上の数でも勝負できるもともと楽しくなることに気づかせる。</p> <p>■ゲーム化することで、児童の課題解決への意欲を高める。</p> <p>〔ぐるぐるゲーム〕</p>  <p>○前課題は印刷して配付し、ノートに貼らせる。</p> <p>○前時までの学習を掲示し、いつでも見られるようにしておく。</p>
<p>2 課題を解決する。</p> <p>(1) 自力解決する。</p> <p>※180°+30°</p> <p>まず180°で線を引いて、次に残った角をはかると30°だから、180°と30°を合わせて210°になる。</p> <p>※360°-150°</p> <p>まず反対側の角度をはかる。すると150°だから、360°から150°を引いて210°になる。</p> <p>(2) 全体で交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○○さんは、まず180°で線を引いて、次に180°より大きい角をはかって足したのだと思いました。 ○△さんは、まず反対側の角をはかって、360°からその角を引いたのだと思いました。 	10分 (2人)	<p>○一つ見つけたら、他の見方も述べさせる。</p> <p>□自分の考えが書けた児童は友達と考えを交換してもよいこととし、自分の考えに自信がもてるようにする。</p> <p>○考えが書けている児童を指名し、提示させる。</p> <p>○提示した児童の考えを読み取って説明できるようにする。</p>
<p>4 練習問題に取り組む。</p>  <p>・180+150=</p> <p>・360-90=</p>	10分 (8人)	<p>※180°や360°の角に書いて、回やみから残りが考えた過程を読み取り、式にしたりして説明したりすることができる。</p> <p>(編集・ノート)</p> <p>○「やりやないな」と思った方にネームプレートを貼らせる。</p> <p>○ネームプレートを使い、課題に対する自分の考えを表出させる。</p>
<p>5 本時のふりかえりを書く。</p> <p>180°より大きい角は、180°とあと何度かを足したり、360°から引いたりすれば求めることができる。</p>	5分 (8人)	<p>○学習して「わかったこと」や「がんばったこと」などをノートに書かせる。</p> <p>○板書にあるキーワードをもとに、本時でわかったことをまとめさせる。</p>

【授業テーマ】(この授業でめざす子どもの姿)
 180°より大きい角の大きさのはかり方を進んで考え、自分や友だちに角度のはかり方が伝わるように、式や言葉で伝え合う子ども

「学びたい」という意欲を高めるために、オリジナルのゲームを作りました!

90°を使った方法までは、取り扱わなくてもよいか?

どの方法が自分に合っているのかネームプレートを使って、全員に意思表示をさせたい。しかし、どの問題でも、ネームプレートを貼る方法が適しているとは、限らない。

板書内のキーワードをもとに自分でまとめを書く。それを振り返りとする。

Q-U分析・学級集団づくり対応シートの作成

① 実態の把握(4年生)

侵害行為認知群(5%)	学校生活満足群(74%)	○ルール的確立度 5 4 3 2 1 内在化 ←————→ 指示が通りにくい ○リレーション的确立度 5 4 3 2 1
学校生活不満足群(5%) B	非承認群(16%) A	親和的 ←————→ 対立や孤立 ○集団の状況
要支援群		○満足型 ・概ね満足しているが、非承認の児童も多い。友達関係も良好である。全体的に学習意欲が低い児童が多い。

② 分析の結果

問題と感じていること	<ul style="list-style-type: none">• 「今は何をすべきなのか、何をする時間なのか」を考える習慣がついていない児童がいる。• 学習訓練が徹底されていない。• 学習意欲が低い児童が多い。
態度や行動が気になる児童	<ul style="list-style-type: none">• A（非承認群。感情をあまり表現しない。現時点でできていることを承認する。）• B（不満足群。友達関係のトラブルは減った。）
総合的なアセスメント (要因として考えられること)	<ul style="list-style-type: none">• 学級に雰囲気もよく、友達関係も概ね良好。ソーシャルスキルの訓練でトラブルも減少するか。• より「分かる授業」を行っていくことで、学習意欲が高まるか。

③ 対応策

これからの方針・目標

- ・自信をもって発言したり、意見を述べたりすることができるようにする。
- ・学級生活への安心感を持ち、学習や活動の場の中でリレーションを実感できるようにする。

場面	具体的な対応と留意点
授業で	【ルール】・指示は短く、分かりやすい言葉で。・聞く姿勢を徹底する。 【リレーション】 ・話し合い活動を多く取り入れ、相手の考えを受容できるようにする。
生活で	【ルール】・「自分がされて嫌なことは絶対にしない」ということを確認する。 ・守れなかった時は、その都度しっかり指導。 【リレーション】 ・1日に必ず全児童とコミュニケーションを取る。

④ 座席表

<p>侵害行為認知群</p>	<p>B 不満足群</p> <p>つまずきを見取り、支援する。 できていることを認め、励ます。</p>	<p>〇〇 〇〇</p>	<p>〇〇 〇〇</p>	<p>〇〇 〇〇</p>	<p>〇〇 〇〇</p>
<p>〇〇 〇〇</p>	<p>〇〇 〇〇</p>	<p>A 非承認群</p> <p>ペア活動の際、しっかりと行えているかどうか見取り、援助する。できていることを認め、励ます。</p>	<p>〇〇 〇〇</p>	<p>〇〇 〇〇</p>	<p>〇〇 〇〇</p>
<p>〇〇 〇〇</p>	<p>〇〇 〇〇</p>	<p>〇〇 〇〇</p>	<p>〇〇 〇〇</p>	<p>〇〇 〇〇</p>	<p>〇〇 〇〇</p>

授業の様子 オリジナルゲームによる導入

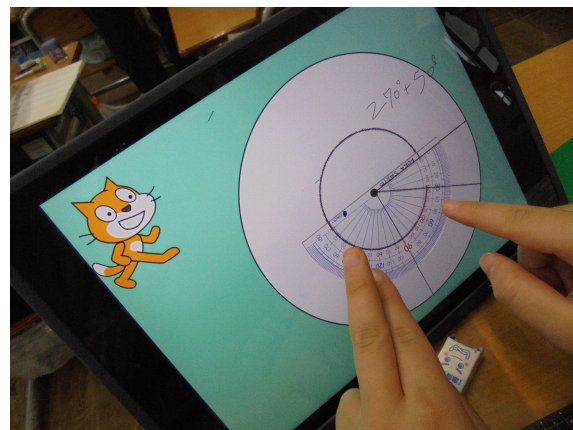
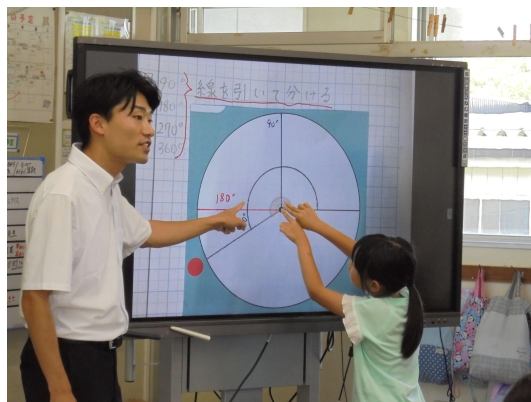


授業の様子 全体での交流



授業の様子

全体での共有



何度かな?

① 180°より大きい
270°より小さい
200°くらい

線も引いて分ける

90°
180°
270°
360°

180°より大きい角はどのようにはかるのかな。

録川 望華
金澤 翔哉
長坂 翼

180 + 30 = 210
270 - 60 = 210

180°にたす
270°からひく
360°からひく

藤井 哲人
矢内 優樹

270 + 60 = 330
A 330°

思ったこと
わかったこと
わからなかったこと
わかにわかったこと
がんばったこと
次にがんばりたいこと
これまでの学習と比べて思ったこと
これまでの学習を生かしたこと
とても嬉しかったこと

研修だより

4年生の授業 単元:角の大きさの表し方を調べよう

授業実施後の「研修だより」

指導主事のご指導より

◎自力解決もその子にとって大切な学び

- ・つまずいちゃったら→いっしょにやろう！こっちにおいでよ！
- ・早々に終わっちゃったら→となりの人とはなしてもいいよ！

◎「対話的な学び」を目指して

- ・全員が分かっているかな？
→何で線を引いて分けるの？線ってどう引くの？
となりの人と話してみて！気があった人？どんなところが同じ？
○○さんと同じって言ってたけど、自分の言葉で言ってみて！
- ・発表するって不安…みんなの力を借りて！ペアで、グループで！
→どんな考え？全部じゃなくていいよ！完ぺきでなくてもいいよ！
- ・どんな説明ができれば達成なのか？
→教師自身が説明してみる
大事なことを投げかけて、まかせる

授業の実際

3年生の授業 単元: 重なりに注目して～図を使って考える～

授業実施前の「研修だより」事前研で話題になったこと

学習活動・内容	時間 (全体)	◎指導上の留意点 ■ 自立して ◎話し合いで気づくに関する留意点 ◎ 研修者
1. 本時の学習課題をつかむ。 このテープを20cmずつかさねては、1本につなぎました。つないだテープの全体の長さは、何cmになりますか。 重なりのあるものの長さをもとめるには、どうすればよいのかな。	5分 (全体)	◎ 問題文で関わられていることを確認し、「重なり」に注目させて課題につなげる。 ■ あえて問題文だけを示してどんな場面か考えさせることで、具体的にイメージする必要性を感じさせる。(図に表すよさに気付かせる) (自立して①)
2. 課題についての発想しをもつ。 ・重なっているところは2回並べられているから、重なっているところを引けばいい。 ・答えは180cmになりそう。	5分 (全体)	◎ 実物のテープと同で「重ねる」場面を確認し、方法や答えを予想させる。 ◎ 答えが100cmの予想があれば取り上げ、なければ教師が出して、説明したくなる場面を作る。 ◎ 1m=100cmを研究する。
3. 課題を解決する。 ・ $100+100-20=180$ ・ $100-20+100=180$ ・ $80+80+20=180$ ・ $100-20=80$ ・ $80+100=180$	5分 (個人) (ペア)	◎ 自力解決では自由に友達と話し合ってもよいこととし、友達の考えを聞いて自分の考えを出されるようにする。ただし、自分の勝手に答えを教えないようにする。 ◎ 全体の前に、自分の考えを説明する。その後、式と図を対応させながら説明する。
4. 全体で交流する。 {引き出したい考え} ・ $100+100-20=180$ (たした長さから重なりを引く) →まず、 $100+100$ をして、重ねていない長さを出しました、それから… ・ $100-20+100=180$ (重なりを引いてからもう一本の長さをたす) →(図を指して)ここからここまでが80cmですよね、だから…	1.5分 (全体)	■ 全体の交流では、板書のすることで再現性を高め、説明させる。また、予想(全体)
5. まとめをする。 重なっているところをかた方だけ引けばよい。 「同じかくとわかりやすい！」	4分 (全体)	◎ 求め方だけでなく、図に表す問題の構造が捉えやすくなることも確認してまとめる。
6. 締めくくをする。 ◎ 重なる部分を求める問題	7分 (全体)	◎ 重なる部分を求める問題 ◎ できた劇から課題解決 ◎ 「わがこころ」をきくように学習のまとめとする。
7. 本時の学習を振り返る。	5分 (全体)	

【授業テーマ】(この授業でめざす子どもの姿)
 図に表すことのよさに気付き、図と式を対応させながら自分の考えを説明したり、自分と友だちの考えを比べながら聞いたりすることができる子ども

問題について
 教科書では、教室の入り口の高さを求める問題だったが、横の線分図に表すのに「これを横にしたら…と1段階必要。練習問題と同様にテープ図にしてみたらどうか。

図に表すことのよさを実感させるには…
 →事前研では、演示により場面を理解させようと考えていたが、今回あえて問題文だけの提案にしてみた。

めあてとまとめ
 「重なっているところを1回ひけばよい」のまとめでよいか？適用問題の解決につながるかどうか？

Q-U分析・学級集団づくり対応シートの作成

① 実態の把握(3年生)

侵害行為認知群(0%)	学校生活満足群(80%) H.K.	○ルール的确立度 <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <tr> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> </table> 内在化 ←————→ 指示が通りにくい ○リレーション的确立度 <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <tr> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> </table>	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
5	4	3	2	1								
5	4	3	2	1								
学校生活不満足群(5%)	非承認群(20%) A.S O.K.	親和的 ←————→ 対立や孤立 ○集団の状況 ○満足型 ・多くの児童にとって学級は安心できる居場所となっているが、少人数なのでより一人一人を見ていく必要あり										
要支援群												

② 分析の結果

問題と感じていること	満足群が80%、非承認群が20%となり、満足度が低下傾向にある。今回非承認群となった児童への対応を含め、認め合う雰囲気作りを考えて行きたい。
態度や行動が気になる児童	O.K (承認得点17。学習意欲が7ポイントで一番低い。) A.S (承認得点17。自閉スペクトラム症の診断、作業の遅れあり。しかし、学習意欲、友達関係、学級の雰囲気については全て満点と答えている。) H.K (満足群だが、右下に位置する。前回よりは上昇。)
総合的なアセスメント (要因として考えられること)	学級の雰囲気は11.9と満点に近く、居心地のよい学級になっていることは良かった。友達関係も0.2ポイント上昇し、学習意欲も11.1で下がってはいない。前回取り組んだ「活用する力を見る問題」についても成果が見られたので継続していききたい。承認得点については、O.KやA.Sは「すごいと言われることはあるか」「あなたの話を聞いてくれるか」という設問の答えが低かった。担任から率先して認める場面を増やしていききたい。

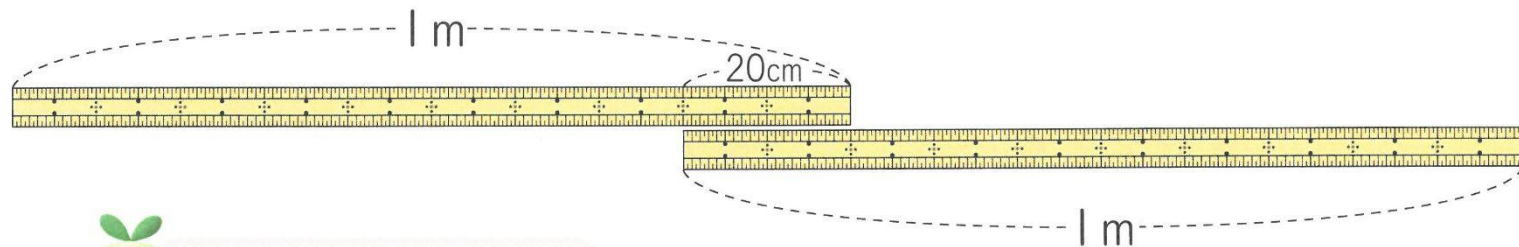
③ 対応策

これからの方針・目標	
安心して自分の思いを表現し、違いも認め合える学級。目標に向かって力を合わせて頑張ることができる学級。	
場面	具体的な対応と留意点
授業で	<ul style="list-style-type: none">・ 友達の考えを自分の考えと比べながら聞き、必ず何かしら反応するように働きかける。意図を明確にしてペア学習やグループ学習を行う。・ 適用問題に取り組む時間の確保。「できた」「わかった」と感じさせる。・ 活用問題への取り組みを計画的に行う。・ O.K…課題の量などが適切か確認する。少しの頑張りでも称賛する。・ A.S…作業が遅れがち。個別の手立てをしていく。・ H.K…活躍の機会を多くする。意欲を称賛する。
生活で	<ul style="list-style-type: none">・ 学級目標や行事への取り組みについてみんなで決め、みんなで頑張ることを確認する。・ 友達の頑張りやよいところを紹介したり称賛したりする活動を工夫する。・ 一人一人が活躍できる場があるように配慮し、担任が率先して称賛する。

④ 座席表

〇〇 〇〇	〇〇 〇〇	〇〇 〇〇	〇〇 〇〇
O.K 不満足群 挙手などの意欲を称賛する。	A.S 不満足群 作業が遅れないようにこまめに声をかける。	K.H 満足群 ペア活動の際、しっかりと行えているかどうか見取り、援助する。できていることを認め、励ます。	H.K 満足群 自力解決時にノートを確認。称賛の機会を逃さないようにする。相手意識をもって話すように支援する。
〇〇 〇〇	〇〇 〇〇	〇〇 〇〇	〇〇 〇〇

1mのテープ2本、20cmずつ重ねました。



図を使って考えよう。

180cm

cm

(100) cm

(20) cm

(100) cm

授業の様子

自力解決(自力解決では、自由に友達と話してもよい)

答えは
160 cmと主張
する児童



答えは
180 cmと主張
する児童

授業の様子 板書

6/27
(木)
P54

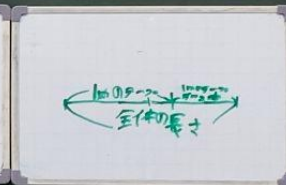
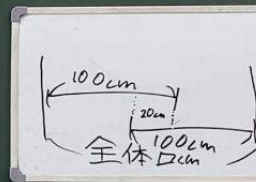
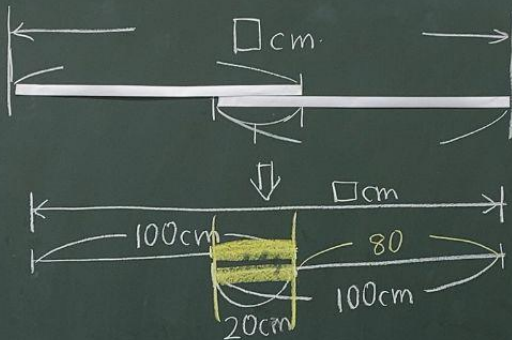
① 1m のテープが2本あります。
このテープを 20cm ずつかさねて
はり、1本につなぎました。
つないだテープの全体の長さは
何cmになりますか。

② かさなりのあるものの長さをもと
めるには、どうすればよいか。

③ どうすればできそう
いくつになりそう

りょうから
 20cm ずつ
引く
 160cm
 180cm
↑
 20cm だけ引く

④
男児 聖丸
はじめに
つぎに
どうにかと
いうと
 $1\text{m} + 1\text{m} = 2\text{m}$
 $2\text{m} = 200\text{cm}$
 $200\text{cm} - 20\text{cm} = 180\text{cm}$



八坂 真子
三馬 悠輝
早坂 渚音
鈴木 優希希
荒井 雅翔

$100 - 20 = 80$
 $100 - 20 = 80$
 $80 + 80 = 160$
答え 160cm

石引 愛莉沙
小真 悠平
小松 華汰
大関 公平

$100 + 80 = 180$
 180cm

研修だより

3年生の授業 単元:重なりに注目して

授業実施後の「研修だより」

指導主事のご指導より

◎図をかくこと

・「図に表すことのよさ」をテーマとした点、今、子どもたちに求められている力の育成にあっている。

・図をかくことはすごく難しい。身に付けるべきスキルとして意識して指導しないと、初発の単元の中では、さらりと終わってしまう。各学年で確実に身に付けさせたい。

・教科書にある図を「見る」だけ、「書き込む」だけだと、自分事にならない。問題文からイメージをもつ、図に書き表す練習を繰り返し行う。

◎時間配分について

・図をかくこと・式に表すこと・言葉での説明と、やることが盛りだくさんだった。本時では図をかくことを中心の活動にして、それに絞ってもよかった。話し合わせることを焦点化して！

→図が正しく書ければ、式にできなくても答えは導き出せた。まずは、そこを話し合わせれば…

研修だより

3年生の授業 単元:重なりに注目して

授業実施後の「研修だより」

◎ 「対話的な学び」

・予想のずれが考えを深めるチャンス！

→ 180と160どっちなの？はっきりさせたい！という思いが意欲を高めた。
また、全員の予想を挙手させたことによって、「相手に自分の考えを分かってもらいたい！」という思いが高まった。

・表現の質を高める！

→ 具体的に説明すること、長い文を区切って話すこと。

→ 「100+80」の「100ってどこ？」「80ってどこ？」と図を結び付けて説明する発問があれば良かった。

授業の実際

2年生の授業

単元：長方形と正方形

授業実施前の「研修だより」事前研で話題になったこと

【授業テーマ】(この授業でめざす子どもの姿)

図形を弁別する活動を通して、辺や頂点の数に着目し、三角形と四角形の性質を根拠と自信をもって説明する子ども

めあてとまとめ

前時で辺、頂点に注目することで弁別できることをまとめているので、それらの言葉を使って説明する姿が見れるよう設定した。

つまずきポイント

①の図形について、児童は弁別に悩むと思われる。既習の定義を活用して区別し、説明できるように黒板に三角形、四角形の定義を掲示し、説明する際の手立てとしたい。

自信をもって説明するためには

部会で話し合い、以下のことを実践したいと思います。

- ・話型を提示する
- ・友達の発表の聞き方、反応の仕方などをあたたかい雰囲気、言葉で
- ・相手の考えを認めつつ、自分の考えを言える。称賛し合える雰囲気づくり

8 本時の指導過程 (総時数 11 時間 本時 3/11 時間)

学習内容・活動	時間 (形態)	○指導上の留意点 ■手立て	
		学習集団づくりに関する手立て ※詳細	(手立て①)
1 本時の学習課題をつかむ。 三角形と四角形を見つけよう。 形をせつめいするために、大きなことは何か。	5 (全体)	○ 前時に新しく学習した「辺」「頂点」などの用語を確認する。 ■ 三角形や四角形の定義や性質を黒板に掲示し、全体で確認する。また、進んだときにいつでも確認できるようにしておく。	
2 見直しをもつ。 ・辺の数に注目する。 ・頂点の数に注目する。	2 (全体)	○ 最初に確認した図形は、 はないかと気付かせる。	
3 課題を解決する。 (1) 自力解決をする。 (2) ペアで解決をする。 (3) 全体で共有する。 (引を出したい考え) ・三角形と四角形は 2 つずつ。 ・頂点に隙間があるから違う。 ・直線の辺で囲まれていないから違う。 ・②は、頂点が 4 つだから「4本の直線で囲まれているから」四角形	25 (6)	○ ワークシートを配付し、分け ※ 辺や頂点の数に注目して、分け (縦線、ワークシート)	
4 まとめる。 (例) 三角形と四角形は、直線で かこまれている。	2 (全体)	○ 「②は…だから三角形」と語の型を示し、説明 ■ 定義や性質を根拠にしてペアで説明をし合う ことで、全体でも自信をもって語せるようにする ○ 三角形でも四角形でもない図形について、ど 「②は…だから違う」と説明できるように型を ね！」「私も同じ！」「私は…だから異 もお手本を示し、語 ○ ②の図形について、児童が悩むことが予想されるた 当てはまるものに挙手してもらい、教師が黒板にネームプレ 貼り、考えを視覚的に分かりやすくする。次週の説明 が変わった児童は、ネームプレートを移動する。	
5 適用問題に取り組む。	5 (個人)	○ さんそうドリルの適用問題に取り組む。 ※ 三角形と四角形の性質を理解している。(縦線、ド	
6 本時の学習を振り返る。	3 (個人)	○ 「わがこと」で振り返りを書かせ、特に次週の長さ ていたら発表させる。	

Q-U分析・学級集団づくり対応シートの作成

① 実態の把握(2年生)

侵害行為認知群(7%)	学校生活満足群(43%) D	○ルールの確立度 5 4 3 2 1 内在化 ←————→ 指示が通りにくい ○リレーションの確立度 5 4 3 2 1
学校生活不満足群(7%)	非承認群(43%) B、C	親和的 ←————→ 対立や孤立 ○集団の状況
要支援群 A		○満足型に近い荒れ始め型 ・学級ルールが共有され、多くの児童にとって安心できる場所になっている。しかし、友だちに迷惑がかかっている行動が目立ち、「やめて」「うるさい」と言い合うことがある。

② 分析の結果

<p>問題と感じていること</p>	<p>ほとんどの児童が、友達と学級で過ごすことが楽しいと感じている。しかし、友達に迷惑がかかる行動をしていることに気付いておらず、周囲のことを考えられない自己中心的な行動をしている人が目立ってしまい、それに影響されてしまう人も少なからずいる。また、注意されたことに言い返して、トラブルになりがち。</p>
<p>態度や行動が気になる児童</p>	<p>A（他人の行動に口出しをすることが多く、友達とトラブルになりやすい。その場合は話を聞き解決策を考える。また、自分の思い通りにいかなかったり、周囲に注意されたりすると、癇癢を起こす。その場合は特に声をかけず、クールダウンするまで様子を見ながら待つ。） B（学習意欲が低い。ペア学習など、誰かと一緒にできるものを取り入れる。） C（自閉スペクトラム症。周囲より行動が遅れがち。声かけが必要。） D（友達にされて嫌だったことに対して、言葉で話すことができずに黙る。悪い行動を真似しがち。クローズド・クエスチョンをしたり、落ち着くまで待ったりして様子を見る）</p>
<p>総合的なアセスメント （要因として考えられること）</p>	<p>学校生活にも慣れ、自分のことのみならず、周囲にも目を配ることができるようになってきた。ルールに反する行動、大きい声や物音を立てることで迷惑をかけていることが一部に多い。そして、自分がされたら友達に怒るのにも関わらず、その迷惑行動を自分でもやっている。だからこそ、反感が強い。</p>

③ 対応策

これからの方針・目標

一人一人が安心して落ちついて過ごせる学級づくり

場面	具体的な対応と留意点
授業で	<ul style="list-style-type: none">・一人一人が参加、活躍できる場所を設定する。・なるべくいろんな人が自分の考えを発表できるように意図的に指名する。・自分の考えの発表を途中まででもよしとし、その続きをみんなで考えるようにする。・お互い助け合うことができるように、席を2人ずつくっつけた配置にする。
生活で	<ul style="list-style-type: none">・話をじっくり聞く。・頑張りや良いところを積極的に紹介したり称賛したりする。・感謝を伝えたり、良いところを見つけたら、ほめたりする。

④ 座席表

<p>B 非承認群</p> <p>ついてこれているか様子を見る。自信がありそうだったら、指名して活躍の場をつくる。</p>	<p>〇〇 〇〇</p>	<p>〇〇 〇〇</p>	<p>A 要支援群</p> <p>指名したり、前に出したりして、活躍の場をつくる</p>	<p>D 学校生活満足群</p> <p>ペアでの活動の様子を把握し、うまくいっていない場合は、支援する。</p>	<p>〇〇 〇〇</p>
<p>〇〇 〇〇</p>	<p>C 非承認群</p> <p>行動が遅れないように声をかけながら進める。</p>	<p>〇〇 〇〇</p>	<p>〇〇 〇〇</p>	<p>〇〇 〇〇</p>	<p>〇〇 〇〇</p>
<p>〇〇 〇〇</p>	<p>〇〇 〇〇</p>	<p>〇〇 〇〇</p>	<p>〇〇 〇〇</p>	<p>〇〇 〇〇</p>	<p>〇〇 〇〇</p>

授業の様子 全体での交流・まとめ





9/24 (X)

④ 形を見つけるために大切なことは何か。

ちゅう点、へんにちゅう目!!
 ↳ カッパン!! ↳ ペン!!

三角形	四角形	×

3本の直線でかこまれた形を三角形という。

4本の直線でかこまれた形を四角形という。

⑤ ちゅう点は、カッパン、へんは、ペンとすることが大切。

さんすうドリル 52

↓

① ② ③ ④

(わ) (が) (こ) (と)

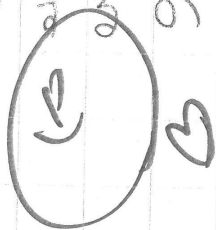
2年生の児童のまとめ

7/24
水

① 形を見つけるために、大切なことは何かな。

② ちょう点は、カックン、へんは、ピンとしてるこ
とが大大切。

③ 形は、どんなところにか
ちょう点があるのか分かりま
した。



④ 形を見つけるために、大切なことは何かな。

⑤ ちょう点は、カックン、へんは、ピンと
してるこしが大大切。

⑥ ちょう点は、カックン、へんはピンとし
ているこしが大大切な
ことをした。



指導主事のご指導

◎ 子どもの姿は担任の姿！

- ・子どもの話を真剣に聞く担任の姿→子どももそう育つ！
- ・困っている子の考えを取り上げて寄り添う！
「○○さんが迷っているみたい」「○○くんの気持ち分かる？」

◎ 算数科の用語・概念の指導について

- ・子どもの言葉「カクン」「チクチク」
→否定しないで、別な言葉で表現しながら用語を押さえる。
「カクンってどういうこと？」「とがっていること」「とがっているのを頂点と言うんだね」
- ・「三角形＝3本の直線で囲まれた形」
→定義に戻っていつも確認できるようにしておく。
「囲まれている＝中から出られないってこと！」のように言い換えて理解させることも有効。

◎ 身につけさせたい数学的な見方・考え方を明確にして

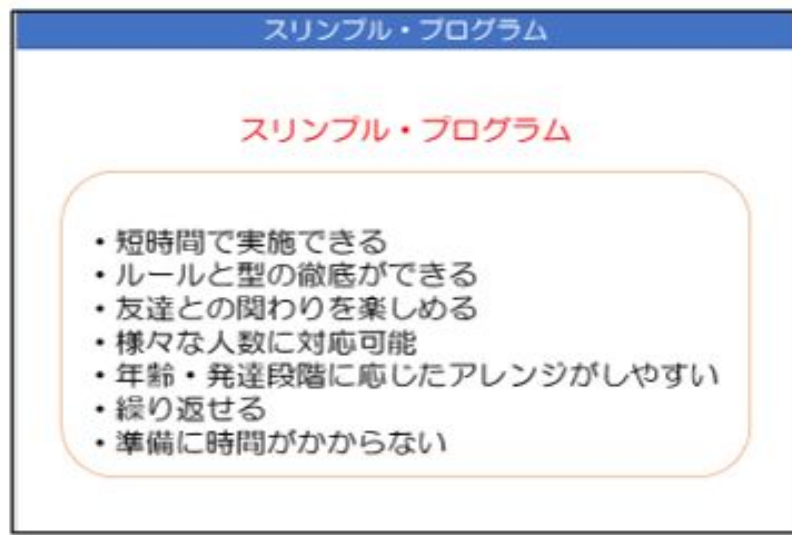
- ・「～に着目して」を洗い出して。
- ・しきつめ模様作りなどで、数学的な感覚を磨く！

6 SGEについて

研修より

SGE（構成的グループエンカウンター）は、リーダーの指示した課題をグループで行い、その時の気持ちを語り、認め合う体験を通して、自分と他者の結びつきを強める活動のことです。本校では、学級づくりの一環として、SGEの実践を行っていきます（水、昼後）。

また、これまでの研修で学んだ「スリンプルプログラム」の考え方を生かして、子どもたちの人間関係の向上のため構成的グループエンカウンター（SGE）とソーシャルスキルトレーニング（SST）などのグループアプローチと捉えて実施していきたいと思います。



- ☆約束 ①「お願いします」「ありがとうございます」を必ず言おう。
 ②先生や友達の話は、相手の顔を見て聞こう。
 ③うなずきながら聞こう。

☆基本的な展開パターン（15分）

活動	時間	内容
1 活動内容 の説明	3～5分	①活動名と活動のねらいを伝える。（板書または掲示するとよい） ②進め方（やり方、ルール、時間など）を説明する。 ③実際にやってみせる。（デモンストレーション） 教師が自己開示（感情、価値観、考え方、行動など）することが大事！ ④「わからないことはないか」「参加できるかどうか」を聞く。
2 活動	7～10分	①実施する態勢（場所、条件、姿勢など）を整える。 ②実施時間を伝え、始める。「時間は〇分です。始め。」 ③子どもたちの活動の様子を観察する。 ※よい気づきをしている子どもやうまく参加していない子どもを見つける。 ④活動の終了「やめ。そこまでです。」
3 振り返り	2～3分	①全員を座らせて静止させ、感想を聞く。 「活動してどんなことを思いましたか。」 「友達が温かいなあと感じた人は手を挙げて下さい。」など ※実態に応じて、2人組などの少人数でシェアリングしてもよい。 ②時間がないときは、教師のひとこと感想を伝える。 「みんな（〇〇さん）が楽しく活動していて、先生はうれしかったよ。」
4 終了		①活動が終わったことを伝え、次の時間の準備をする。

6月・7月のSGEについて

研修より

6・7月の目標

- 関わる楽しさと一体感を味わおう
- 1学期を振り返り、認め合おう

6月・7月は「交流」「一体感」をキーワードに活動を選んであります。ただ、数えてみると、6月に2回、7月は0回！計2回しかありませんでした（キッズシアターの変更で、3回目が無くなってしまった）ので、貴重な機会と思って時間を十分に取って実践して下さい。

月	日	曜	内容	ねらい	準備物等
6	5	水	〇〇先生ウォッチング	<ul style="list-style-type: none"> ・担任の自己開示により、学級の子もたちとの信頼関係を育む。 	※資料④参照。持ち上がりでない先生におすすぬ。
			または あなたとわたしはピットンコ	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の好みや趣味、事実などが同じ友達を見つけ出し、仲間意識を促進する。 	※資料⑤参照 ワークシートがついてますので、必要分コピーして下さい。 ※実態に合わせて、どちらをやってもよいです。
6	12	水	もうじゅうがり	<ul style="list-style-type: none"> ・全員で盛り上がり、一体感を高める。 	※ファイル第12回参照

8・9月のSGEについて

8・9月の目標

- 友達と関わる楽しさを味わおう
- 気持ちのよい2学期のスタートを切ろう

8月・9月はリスタートを意識して、「やっぱり学校っていいな」「友達と一緒に楽しいな」と思える活動を中心にしたと思います。今年は放送室にある本「10分でできるなかよしスキルタイム」に加えて、棚倉さんからいただいた「ハッピータイム」資料より、仲間づくり活動を入れてみましたので、資料を参考にしてみてください。

月	日	曜	内容	ねらい	準備物等
8	21	水	サイコロトーキング 夏休みの思い出バージョン！	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの思い出を共有し、友達と一緒に楽しい思い出を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・トークシート ・サイコロ ※ファイル第23回参照
8	28	水	あいさつのキャッチボールをしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・「相手の目を見て」「相手に届く大きな声で」、気持ちのよいあいさつができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ※資料2パターンあります。参考にして、実態に応じてどうぞ。 ※資料⑥、⑦
9	4	水	そうだねそうなんだね または 上手な聞き方（SST）	<ul style="list-style-type: none"> ・肯定的に話を聞いてもらう体験を通して、話を聞く態度が友達と楽しく生活する上で大切ということに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ※どちらも「聴く」ことの活動ですが、学年の実態に合わせて行ってください。 ※「そうだねそうなんだね」はファイル第16回参照。「上手な聞き方」は資料⑧参照です。
9	11	水	好きな〇〇言ってリレー （山手線 version）	<ul style="list-style-type: none"> ・自己理解を促し、みんなで声をつなぐ心地よさを味わう。 	※資料⑧参照。
9	18	水	ほめほめじゃんけん	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の見張りを見つけ、伝え合う活動を通して、認め合う雰囲気をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ファイル第20回参照 ※音楽会に向けての見張りを認め合えるといいですね！

あいさつのキャッチボールをしよう



好きな〇〇言ってリレー(山手線version)



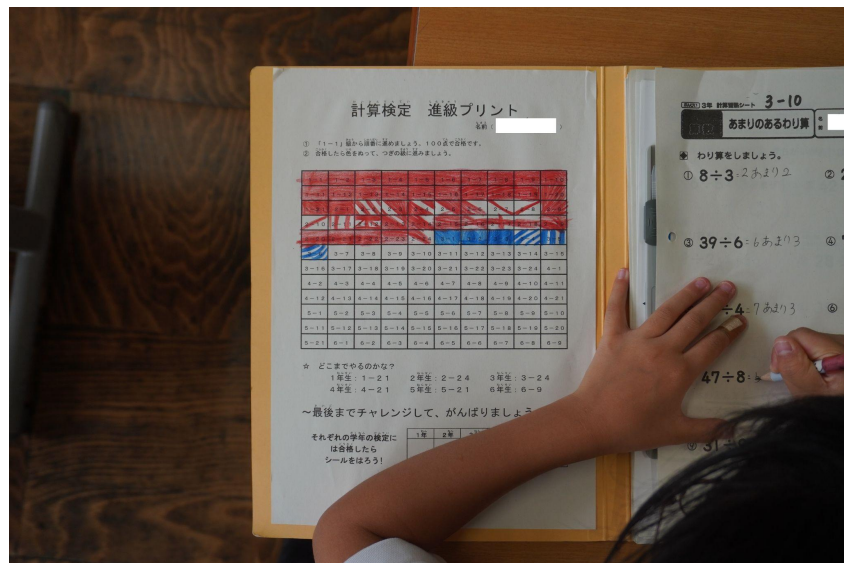
SGEの様子



7 目標をもってチャレンジできる場の設定

(1) 朝の活動の工夫と充実(わくわくタイム)


① 国語・算数・読書タイムを組み合わせた補充的・発展



② 読み聞かせやビブリオバトルの実施



③ 必読書20冊の選定



ひっどく さつ
よんでほしい 必読20冊 (2年)

本のタイトル		本のタイトル	
なそのすきな女の子	●	ねえさんといもうと	●
きなきがほしい	●	なんでももってる?男の子	●
ふゆの子ウーフ	●	スタンリーんとちいさな火星入	●
はじめてのキャンプ	●	ありのフェルダ	●
犬のハナコのおいしゃさん	●	石はなにからできている?	●
もったいないばあさん	●	ないた・あかおに	●
番ねずみのヤカちゃん	●	さっちゃんの まほうのて	●
てぶくろが いっぱい	●	かたあしだちょうのエルフ	●
かわいいこねこをもらってください	●	がんばれ!名犬チロリ	●
しっばいに かんぱい	●	ドーナツのあなのはなし	●



④ 学校司書との連携と市立図書館の有効活用



(2) 自ら進んで行う家庭学習の推進

① 「家庭学習カード」や「家庭学習計画表」を活用した

学習管理力の育成と家庭との連携

白河市立開成小学校 家庭学習の手引き

「自ら学び続ける」家庭学習のすすめ

家庭学習とは・・・「宿題+自主学習」

「家庭学習」とは、学校や塾（じゅく）ではなく、自分の家で行う学習のことです。開成小学校では、家庭学習は「宿題+自主学習」とらえています。



なぜ、家庭学習が必要なの？

「家庭学習なんてめんどうくさい」「やりたくないなあ」と思っていますか？たとえ宿題をきちんとやっても、「なぜやるのかわからない」「先生にやりにさいって言われるからしかたなくやっている」では、大切な力は育ちません。まずは、「なぜ必要なのか」をいっしょに考えてみましょう。

① 「学力」をつける（授業と家庭学習のサイクル化）

家庭学習が必要な理由の1つ目は、「学力をつける」ということです。「学校での学習→家庭での復習・予習→学校での学習」というサイクルでくり返し学習することで、学習したことをしっかりと身につけることができます。

② 「自分の学びをマネジメントする力」をつける（計画→学習→ふり返し→方法の見直し）のサイクル化

理由の2つ目は、自分で生活や学習を改善していく「自己マネジメント力」をつけるということです。宿題だけではなく、自分の学習の課題や問題点に気づき、それをおこなう学習を自分で行っていく力をつけることで、「学び方」を身につけることができます。例えば、テストに向けてどんな学習をすればよいかを考えたり、「わからないな」「どうしてかな」と感じたことについてもっとくわしく調べたりする力や、いつ、どのように学習するかを考えて自分の時間の管理をしったりする力のことを指しています。

③ 「自ら学び続ける力」をつける

理由の3つ目は、「自ら学び続ける力」をつけるということです。これから目まぐるしく変わっていく社会の中で、みなさんが新たに学ぶはなければならないことはどんどん出てくるでしょう。そんな時に「教えてもらったことだけおぼえていければいい」とはいきません。自分の未来を切りひらいていくためにも、「自ら学び続ける力」の土台づくりが必要です。そのため、家庭学習は大切な役割（やくわり）を果たしています。自分の目標や課題について、自ら考え、自分の力で解決しながら力強く生きていける力をつけていきましょう。

2つのサイクル化で「自ら学び続ける力」の土台作り

授業 ↔ 家庭学習



計画 → 学習 → 見直し → 振り返り

どんな勉強をすればいいの？

自主学習は、自主学習1のような内容と自主学習2のような内容があります。まずは宿題にしっかり取り組みましょう。その上でまずは自主学習1、さらに自主学習2にも取り組んでいきましょう。

家庭学習

宿題

・学校から出された、必ず取り組む課題

自主学習1

・授業の復習や予習
・テストに向けての勉強
・自分の課題に合わせた勉強

自主学習2

・自分が知りたいことや調べたいことについて取り組み、学びを広げたり深めたりする学習

家庭学習のめやす「学年×10分+10分」

○ 1・2年生…家庭学習入門期



- ・学習の習慣（しゅうかん）を身につけよう！
- ・宿題をわずれずに、ていねいにやろう！
- ・決まった時間に、テレビを消してやろう！
- ・時間は20分～30分をめやすにがんばろう！

○ 3・4年生…家庭学習充実（じゅうじつ）期



- ・宿題を基本に、少しずつ自主学習にもチャレンジしよう！
- ・今日やることは何かを確かめて、順番や時間の計画を立てよう！
- ・まずは宿題に ていねいに取り組みよう！
- ・時間は40分～50分をめやすにがんばろう！

○ 5・6年生…家庭学習完成期



- ・自分で計画を立てて、工夫して学習に取り組みよう！
- ・何を、どのように学習するか考え、ねばり強く取り組みよう！
- ・まずは宿題を確実に、ていねいに。その後自主学習にも！
- ・時間は60分以上を目標にがんばろう！



家庭学習のしかた

中学校に続く学びを意識しよう！！

- ① 5・6年生は、週の始めにはカードを使って計画を立てよう。
- ② いつもの時間、いつもの場所で、机やテーブルの上をかたつけて、テレビを消してやろう。
- ③ 今日やることは何かを確かめてから始めよう。
- ④ まずは宿題を確実に、ていねいにやろう。見直しもしよう。（あつものんも取ってもらおう）
- ⑤ 自分の計画で、自主学習にも取り組みよう。
- ⑥ 学習が終わったら、明日の準備もしよう。
- ⑦ 週の終わりには、ふり返しをして内容（ないよう）や方法を見直そう。



自主学習のテーマ:

	月	火	水	木	金	チェックとアクション					
予定	サッカー	ピアノ・じゅく		サッカー		宿題 A B C D					
音読											
漢字						振り返り					
プリント											
その他						自主学習 A B C D					
自主学習	○	×	◎	○	提出						
連絡メモ						振り返り					
自己評価	学習時間	自己評価	学習時間	自己評価	学習時間	自己評価	学習時間	自己評価	学習時間	自己評価	保護者印
	分		分		分		分		分		
確認印	担任印	担任印	担任印	担任印	担任印	担任印	担任印	担任印	担任印	担任印	

(3) 学習内容の定着を図る場の設定

① 「漢字・計算コンクール」の実施(年2回)

【漢字の部】

漢字の読み13問、書き37問、計50問

教科書巻末一覧表より出題

【計算の部】

1・2年生は、50問

3～6年生は、25問

教科書に載っている練習問題より出題

【表彰】

満点合格証(1回目で満点の児童のみ)

80点以上の児童に**合格証**(挑戦回数は問わない)



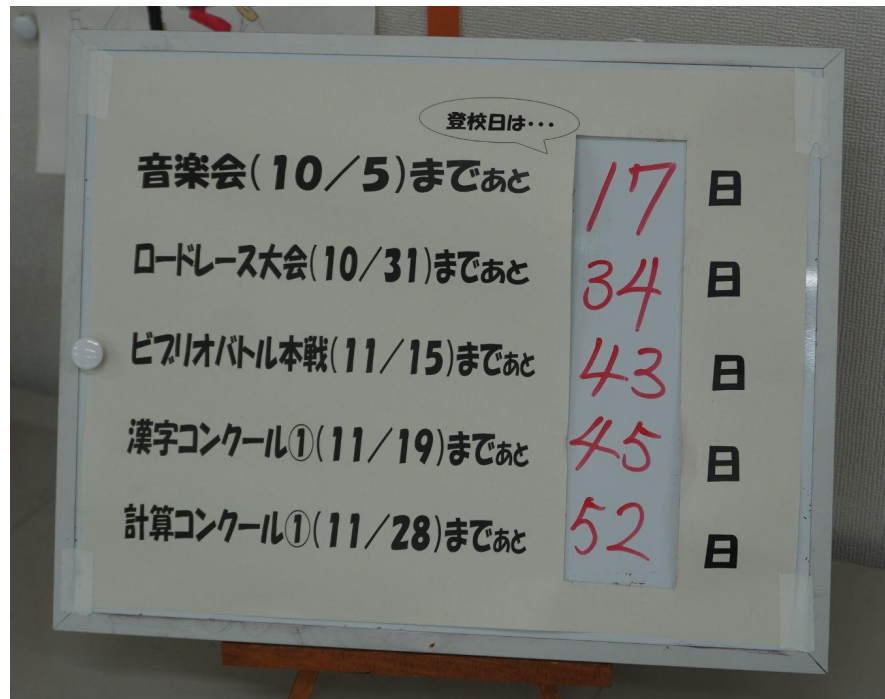
② 自己目標の設定と各単元末テストに向けた取り組み(テスト確認表)

☆おうちの方へ

返却したテストに目を通し、確認印をお願いします。国語・算数は目標合格をめざして再テストを行います(到達率80%)。ご協力よろしくお願いいたします。

国語					算数				
回数	単元名	表	うら	目標合格 保護者印	回数	単元名	表	うら	目標合格 保護者印
1	春風をたどって	100	90	合格	1	かけ算	100	50	合格
2	こまを楽しむ	100	95	合格	2	時ごとと時間のもとめ方	100	40	合格
3	4・5月の漢字のたしかめ	74	90	合格	3	わり算	100	100	合格
4	まいごのかぎ	99	100	合格	4	たし算とひき算の筆算	95	100	合格
5	仕事のくふう、見つけたよ	6			5	長いものの長さのはかり方と表し方	90	/	合格
6	話す・聞く	99	/	合格	6	ぼうグラフと表/暗算	100	50	合格
7	漢字のまとめ①	82	100	合格	7	たしかめよう	95	100	合格
8	たしかめよう	80	85	合格					
9	活用する力をみるシート				8	活用する力をみるシート	100	/	合格

理科					社会				
回数	単元名	表	うら	目標合格 保護者印	回数	単元名	表	うら	目標合格 保護者印
1	春の生き物	100	100	合格	1	学校のまわり	90	40	合格
2	たねまき		40	合格	2	市の様子	100	50	合格
3	チョウのかんさつ	100	48	合格					
4	風やゴムのはたらき								





お知らせ

11月21日(木)に、福島県教育センターにおいて、「福島県教育研究発表会」が開催されます。
そこで、本校の学校課題研究「学び合い、高め合う授業の追究～よりよい学級集団づくりを基盤として～」の実践発表を行います。
資料を掲載いたしますので、ご覧ください。

[学び合い、高め合う授業の追究 \(関辺小\).pdf](#)

ポータルトップページ

今日の関辺小!

お知らせ

学校案内

行事予定

全国学力・学習状況調査結果

特設クラブ運営方針

白河市教育委員会

白河市立図書館見学(2年生) **ブログ** 8:19

こんなことがありました

今日の出来事

全ての記事

10件

登校の様子

投稿日時: 9:35 **関** 関辺小-サイト管理者

11月20日(水)の登校の様子です。





**ご清聴、
ありがとうございました。**